

全国棚田・千枚田連絡協議会

# 棚田ライタラス

第38号 2005.7.15

(季刊・年4回発行)

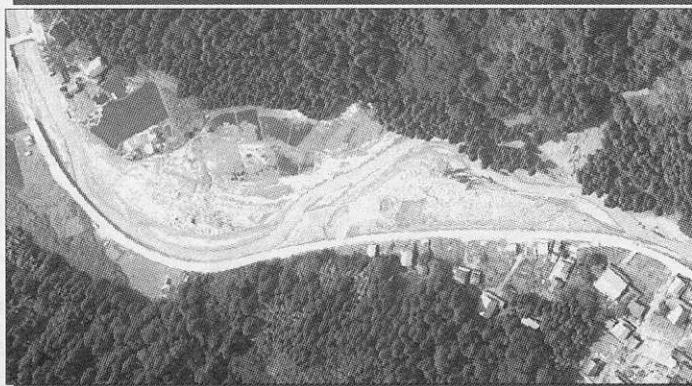
発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきやらネットワーク

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202

TEL 03-5389-9937 / FAX 03-5389-0078

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>



右上：新潟県小千谷市にぎり地区。右下：兵庫県淡路市（旧北淡町五斗長）下川池決壊のようす。左上：大分県別府市内成棚田。コンクリートブロック積み工法と石積み工法の2種が比較できる。左下：福井県池田町小畠地区。川が氾濫し農地が流失している

「安塚  
礼讃」

檀 太 郎

CMプロデューサー・エッセイスト

三年ばかり前のことであつただどうか、安塚町（現・新潟県上越市安塚区）の役場から連絡が入り、スローフードの催しがあるから出席して貰えないか、という申し出があった。恥ずかしい話だが、それ迄は安塚の存在など全く知らずとして興味も湧かなかった。が、パーティーには谷川俊太郎さんが出でなさると伺い、それならばと腰を上げたのが偽らぬ事実である。

事前の打ち合わせが東京であり、その時に安塚の名物は棚田であり、魚沼には負けないおいしいお米が出来るんです、という目を輝かせながらの説明があった。棚田と言えば、中国は雲南省の昆明から西双版納（シーソーパンナ）に向かう途中の棚田に目を奪われたし、インドネシアのバリ島のキンタマーニ界隈の棚田の風景にも、何故か懐かしさを覚えしばらく見入っていたことを思い出す。日本の棚田と言えば、福岡の秋月にある白川の棚田も美しかったし、佐賀の古湯温泉に向かう途中の西の谷の棚田の近くで、山葵が自生していた光景も忘れられない。

そんなわけで、安塚の棚田も俄然見たくなり、当日は犬連れて伺うことを条件に安塚を訪れたのが運の尽き。すっかり安塚に魅せられてしまったのである。棚田で作られた米をぬか釜で炊き、熱々のご飯に生卵をかけて頂くという、ぶっかけ飯の素朴なおいしさ。棚田でも僅かにしか取れないと言う、幻の糯米で搗き上げたぶんずい餅。そして極めつけは、棚田の周辺に自生している数多の山菜。夜になると、棚田の上方から無数の螢が降り注ぐように飛来する。

もうすっかり安塚にのめり込み、年に三回くらいのペースで訪れているのであるまい。それも犬仲間と共に、八頭の大小の犬を引き連れてである。棚田が見渡せるスキー場で犬と戯れ、宿舎に帰って山の珍味を貪る。季節の折り目に安塚を訪れないとい、人間も犬もストレスが溜るばかりである。今年こそ、未体験の雪の棚田を眺めようと企んでいる。

# 棚田（中山間地域）と災害

2004年は新潟県中越震災をはじめ、台風、集中豪雨などによる災害が相次いだ。農地や水路などの農業用施設の被害は甚大で、農林水産省によるとその被災額2601億円。過去5ヶ年平均(793億円)の3倍以上であった。なかでも棚田や中山間地域の農地・農業用施設はいかなる状況だったのか――。日本全国の中山間地域の情報を集めた。そして今後、災害の復旧や復興、また防災に対し、都市サイドは何ができるのか、みなさんと考えていただきたい。

## 宮崎県 (日之影町)

宮崎県は、昨年8月17～19日の台風15号、8月29～30日の台風16号、及び9月4～7日の台風18号の通過に伴い、山間部における農地の被害が例年になく大きなものとなった。そんななかでも、全国棚田（千枚田）連絡協議会自治体会員でもある日之影町の災害のようすを町建設課耕地係長、戸高泰治さんにお聞きした。

### 用水路の管理道路が流され、高齢化等で管理の行き届かない農地が被害を受けて

「昨年の台風は一昨年に続いた甚大な被害を日之影町にもたらしました。農地・農業施設被害は、町内全体で114カ所、3億6500万円でした。日之影町は山々に囲まれ、棚田ばかりで、棚田や用水路本線の被害が大きかったのです。用水路は長いところで34kmもあり、数kmや10kmの用水路が山際を何本も通っていますからね。用水路 자체はコンクリートですからいじょうぶでしたが、増水し、しかも土砂や落ち葉がつまつて水が溢れ、用

水路に沿ってつくられている『とも』、これは管理道のことですが、この『とも』が流されてしまつたんです。ひどいところでは10m以上も。『とも』は舗装されておらず、用水路が山の崖につくられたところもあり、石積みで水路の土台を築いたものもありますから……。

水路の復旧は苦労しました。何しろ、現場に行くための道路がないんです。水路は山のなかを走っていますから、そこまで車が行けない。ですから、ワイヤーでさく道を張つて、道具や資材を運びました。上から下へ、下から上へ。もともと用水路は歩いて見回りますから、車で行くようにはできていません。

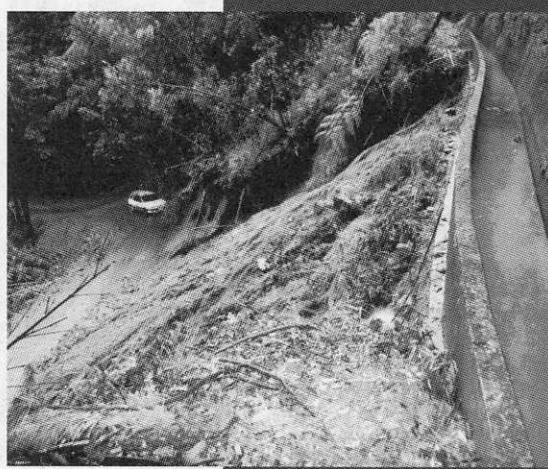
ですから、コストがかかりました。たとえば、工事車両が行けるなら50万円で済むところが、300～400万円かかってしまう。工事費が通常の2～3倍、ひどいと8倍。ただ、農業施設の災害復旧事業費（補助残）に関しては、日之影町は昔から個人負担はなく、町負担です。今回は国の補助率が99%で、残りは町ですから、農家個人や水利組合に負担はない、「とも」の復旧を行いました。

一方、農地は、復旧不可能な場所もあります。たとえば、山の沢が増水して、その脇にあつた田んぼ自体がすべて流れ

れて、無くなってしまったところなどです。こうしたところは、田んぼの面積は2aぐらいしかないのに、復旧に莫大な費用がかかる。でも補助対象額は、田んぼ1aに対して約40数万円までなんです。たとえば1枚の田んぼ（1a）復旧に、100万円かかるとなつても、補助金が約40万円と限度があるのですから、残りが負担できず、直せない農地も出てきています。田んぼの面積が広ければいいのですが、棚田のように小さな面積で大きくやられたところの復旧は、コストに見合わないので。ですから個人で直す人が多いですよ。結構、こうした箇所が多いですね。

全体を見ると、棚田の被害は、流域が広く集中的に雨が降った山ほど大きいですね。こうしたところの棚田の畦畔は崩れています。もともと、モグラなどの影響で穴があいていたり、石積みが古くなっている場所が壊れています。石積みでも、がつちり組んであるところは、丈夫なんです。野面積みのように小さな雑石を積んだものが壊れていきました。

あと、家から遠いため、手が行き届かないような農地が被害を受けています。『こここの地区は毎年壊れるね』というようないいな箇所は、やっぱりあります。でも、いますね』。



日之影町  
用水路の管理道「とも」  
が流されたようす

# 愛媛県 (西予市)

2004年4月1日、野村町、城川町、三瓶町、明浜町、宇和町の5町が合併して誕生した西予市。合併したその年の夏、5回の台風上陸で西予市は大きな被害を受けた。なかでも、被害が甚大であった中山間地域、旧野村町の担当者である西予市農林水産課主事、矢野耕二さんに話を伺った。

台風上陸、5回  
急峻な山々に囲まれ、  
災害が大きかつた旧野村町

# 大分県 (別府市)

大分県別府市は、昨年8月29日に台風16号が上陸して以来、台風18号、台風21号、そして10月には台風23号という、4つの台風による被害を受けた。大分県は、全国でも中山間地域の多い県であるが、なかでも今回、別府市は棚田の景観保全を意識した復旧工事を行ったという。担当の別府市農林水産課農政水産係、松川清美さんから話を聞いた。

## 棚田百選の一、内成棚田 地元と議会から 石積み工法での復旧要望が

「別府市には、日本の棚田百選に認定された内成の棚田があります。市全体では、

内成の棚田は、川を挟んで馬蹄形に拓かれた棚田で、約40haと広いため、被害箇所も多かったのは無理ありません。その多くが石積みで、これらの石積みが数多く崩れるという被害が出ました。

今回、その崩壊した石積みの復旧において、景観に配慮した工法を用いることができました。実は当初、市では従来からの主流である「コンクリートブロックでの『ブロック積み工法』による復旧を予定していました。

けれども、地元の棚田保存会である「内成の棚田とむらづくりを考える会」から「石積み工法」による復旧への要望がありました。さらに、国の災害査定をあと2日後に控えた12月6日のことです。別

「旧野村町は人口1万1000人の山間地域です。ほとんどが農業をしています。東には標高1500mの四国カルストを抱え、農地は200～300mのところにあります。

昨年は7月31日の台風10号にはじまり、台風16号、18号、21号が通過しました。そして10月18日、台風23号です。3ヶ月で台風が5回上陸したのです。それによる農地と農業施設の被害は250カ所、5億円でした。そのうち、国の補助を受けたのは112カ所、3億円。ちなみにこの5年は、毎年10カ所程度でした。

農作物は、キウイやケール、レタス、ホウレンソウ、ピーマンなど露地野菜が

昨年の農地・農業施設の災害状況は18カ所、約1億2500万円でしたが、そのうち内成地区は96カ所、約5300万円と、被害はかなり大きいものでした。

内成の棚田は、川を挟んで馬蹄形に拓かれた棚田で、約40haと広いため、被害箇所も多かったのは無理ありません。その多くが石積みで、これらの石積みが数多く崩れるという被害が出ました。

石積み工法は基本的には、以前あつた石積みの石を使うのですが、請負業者は施工時に、石が流されてなくなっていました。古い石積みのため、規格に合わない小さな石や大きな石があり、自然石の確保に苦労したようです。しかも狭い棚田ではから、小型の掘削機の搬入路の確保もむずかしく、また機械をまつたく入れることもできず、すべて人力での施工となつた箇所もあり、たいへん苦労したよ

うでした。なお、石積みの安全確保のために、石と石のあいだにはコンクリートを入れて固め、補強しています。

そこで急きよ、国の査定の際、「内成は棚田百選に選定された地区であり、自然環境の保全、景観に配慮した工法の採用」を要望したのです。その結果、石積み工法の採用が認められました。

石積み工法は基本的には、以前あつた石積みの石を使うのですが、請負業者は施工時に、石が流されてなくなっています。

石積み工法は基本的には、以前あつた

が、その一方で、棚田のおかげで災害が小さくてすんだのではないかとも思っています。棚田は、一枚あたりの面積が小さく、災害の規模が小さくてすんでいます。大きな田んぼは、貯まる雨水も大量ですから、1カ所が崩れてしまふと被害も大きくなってしまいます。

ちなみに現在、内成地区は棚田保全への意欲も高く、活性化への取り組みもはじまっています。昨年度までは、中山間地域等直接支払制度の導入も条件があわず、見送っていましたが、今年度からは導入に向けて改めて話が進められています。景観保全とともに、

當農や活性化にも力が入ってきています」。

メインですが、こうした野菜の被害額が1億8000万円。そのほか、酪農が盛んで、飼料の被害も大きかつたほか、停電したために牛乳の保冷が効かず、牛乳の損害も大きかつたのです。

旧野村町の農地は、ほとんどが山の谷間に開かれており、石積みです。いまはほとんどが畑になっていますが、傾斜は30度があり、石積みの高さは3～4mのものが中心です。

こうした石積みが、端から端までまとめて落ちた、というのが今回の被害の特徴です。普通であれば、石積みのなかのある一カ所が崩れ落ちるのですが、両側まで落ちているのです。こうなると、石



旧野村町で一番被害が大きかった馬地地区の全景。大規模な山崩れが起こっている

積みを部分的に補修できないため、コンクリート構造物で全体に施工せざるを得なくなります。ええ、コンクリートブロックで復旧しています。

農家自身も『早く、より頑丈に直してくれ。今後は崩れないようにしてくれ』という声が主立つた声で、景観重視の石積みにはこだわってはいないうえ、そして災害が大きかつたからといって農業をやめる人はいないですね。ほかに職がないですか……。激甚指定されたおかげで、農家負担が事業費の0.2%程度です

んだことも大きいかもしれません。

古い石積みのところが崩れているのは確かです。石工さんはいます。旧野村町に10人いるかないかですが、今回の復旧の基礎をつくらうために、ひつぱりだこでした。コンクリートブロックを積むのも石工さんにお願いするのです。

コンクリートでも、カーブなどを積むのはむずかしく、石工さんにお願いしなければなりません。

また、原形復旧が原則ですが、原形がわからないところもあります。跡形もなればなりません。

山の崩壊に伴い被害を大きく出しました。なかでも、とくに被害が大きかった大郷地区は、町全体で国の災害補助額が7億円弱だったうち、その半分を占めているほどです。ひどい災害でした。最近は、災害という灾害はそうなかつたですし、お年寄りに聞いても、『今までに例がない』といっています。

被害が大きくなつたのは、山の崩壊に伴い、植わっていた杉の木が倒れて、木材が河川に流されて、河川にひつかかり水が溢れ、土砂も農地に溢れて、堆積土になつたり、逆に農地がえぐれたりして……。流れ出た木は、根っこごと流れるため、橋桁にひつかかるなど災害を大きくしたのです。

9月末の1回目の台風で、すでに河川が壊れ、土砂が堆積しているような状態でした。それが10月の2回目の台風で、押し流されるような形になつて……。災害後、現場に向かつたとき、見える範囲

く、農地がなくなつてしまつて……。旧町内で一番被害が大きかつた馬地地区では、山崩れで上から下まで200m×300mの距離で、農地とため池が0.48ha

分流されてしまつています。

一番上が畠だつたのですが、こここの法面から水が噴き出していました。見に行つたときには、水が飛び出すよう吹き出していく、あんなのは見たことがなかつたですね。雨水が多すぎて、吹き上げていたんです。水の出方が異常でした。

従来であれば、山の谷間に水は集まる

でも何10カ所も崩れていて、山奥まで想像すると実際は何百カ所も壊れているのではないかと思われましたね。

大郷地区で被害にあった川は、幅20mほどで集落の中央を流れています。この

川に沿つて農地は拓かれ、また山の傾斜地に広がっているところです。世帯数は77世帯で、農業中心の地区です。米はあまりつくつておらず、昔から柿栽培が盛んな地域で、農地には柿がずらつと植わっています。山の畠の方は、急な斜面で20度程度でしょうか。今回、山の斜面に植えられた柿は、だいじょうぶでした。

山崩れがあつたのは、上流のもつと奥深い、杉林のあるところでしたから……。

しかし、川沿いの樹園地は完全に崩壊しました。護岸が壊れて河川際の農地が全滅でした。いま、復旧を進めています

のですが、被災現場は谷間ではないにもかかわらず、水が飛び出していました。谷間だけで吐ききれなかつたんですね。通常なら流れない場所を轟々と水が流れていました。

復旧は、今年の12月に完成予定です。みんな口を揃えて『台風が5回も来ることは、もうないだろう』といいますが、だいたい12年に1回のペースで大災害があるといわれています。みんな『申年はいけん』といいますね。昔から、この辺りは申年に災害が多いのですよ』。

のですが、被災現場は谷間ではないにもかかわらず、水が飛び出していました。離農の話はないですね。当初は『土地も道もなくなつたのでやめようか』という人がいましたが、地域のリーダーかつ、自治会長である曾我義一さんが中心となつて、『復旧して農地も農道も直つたら、やろう』というようになりましたね。みんな、災害にめげることなく、熱心に柿づくりを続けています』。

## 愛媛県 (西条市)

昨年の9月28~29日の台風21号、そして10月19~20日の台風23号によって、愛媛県旧小松町の山間部は大きな被害に見舞われた。その年の11月1日には小松町・丹原町・東予市・西条市の2市2町が合併して、西条市となっている。復旧事業は西条市として行った旧小松町。災害と復旧の様子を旧小松町の担当、西条市農林土木課課長補佐、三木伸一さんにお聞きしました。

## 土砂が農地に溢れて

「昨年秋の2つの台風による被害です。雨がすごくて。時間雨量が最大で79mmと多く、一気に山が崩れたんです。旧小松町は、平坦部もありますが、山間部を抱えており、こうした中山間地域一帯が、



山間部の谷間にある農地。畦畔が崩壊しただんだん畠

山間部に被害が集中  
谷間に土石流が流れ込み  
ため池にも多くの被害が

昨年の農地・農業施設の災害において、香川県は全国でも3番目に被害額の大きな県となった。その額約230億円。過去5年の平均被害額は約3億6000万円であり、60倍以上の規模の災害に見舞われたことになる。なかでも中山間地域に着目し、香川県の東端に位置し、徳島県と隣接する東かがわ市の被害状況をお聞きした。お話をされたのは、東かがわ市経済課農水工務グループ、三好敏一さんである。

「東かがわ市は、主に台風10号、21号、23号による被害を受けました。最も大きな被害を出した台風23号は、10月19日の夕方から21日の未明にかけて香川県を襲いました。このとき、東かがわ市で最もひどい災害を受けた五名地区の最大時間雨量は116mm、最大日雨量で593mmでした。これは県内で最大でした。

五名地区は山間部です。市内でも、被害は海側の平野部ではなく、山間部に集中しました。とくに、山間部に雨が集中したのです。

確かに、もともと香川県は雨の少ないところで、ため池がたくさんあるような地域です。今回は、こうしたため池にも被害がたくさん出ました。ため池の数は小さなものも含めて、市内に約800カ

確かに、もともと香川県は雨の少ない  
地域です。今回は、こうしたため池にも  
被害がたくさん出ました。ため池の数は  
小さなものも含めて、市内に約800カ所  
所あります。そのうち、52カ所が  
災害査定を受けました。ため池の  
堤防が崩壊したり、中に土砂が入  
り込んで埋まつてしまつたり、そ  
んな被害です。

たが、個人所有のため池もあるんです。ひと谷が自分の田んぼでその上にあるため池も個人のもので

て、あらゆる農地。畦畔

というスタイルですが、こうしたところは個人で直していただくほかに方法がないものですから、た

山間部の谷間に  
いへんだと思ひます。  
ため池のなかに埋まつた土砂を  
取り除く復旧はこれからです。こ

うした排土を農地が流出したところに使うなど、方策を考えています。復旧を今年中には終え、来年は作付できるようにしたいですね。

ほかにも、急傾斜地にあるだんだん畑の畦畔も流されました。畦の高さは、高いところでは3~4mで、石垣は多いですよ。こうした石垣も壊れましたね。今回、ほ場整備をしている方が、土羽<sup>とば</sup>で緩やかに畦畔をつくっていますから、災害には強かつたですね。

また山間部の農地は、谷間の沢水を取つているのですが、ここに土石流や流木が流れ込み、谷間の小さな河川が氾濫し、両岸の農地が流されました。土水路ですから、雨量に耐えられずに水が溢れ、崩壊したのです。こうした被害が主流でした。さらに、山際の河川沿いについている揚水機は、ほとんど冠水等のため壊れました。揚水機の被害で28カ所、約1億4000万円です。ちなみに農地・農業用施設全体の災害査定額は、11億3000万円と、県下でも3番目の被害額でしたね。

とにかく印象は「ひどいなあ」の一言。70~80歳の人も「かつてない」「はじめて」という感想でした。河川の氾濫がひどくて、流域農地に広範囲に渡って土砂が堆積し、また流失していませんから……。なにせ、規模がすごかつたんです。

なかには、復旧しないという人もいます。農地災害の個人負担金はいまのところ5%程度なのですが、もう直さなくてもいいとのことです。場所にもよりますが、川向こうの田んぼへ渡る橋が流されてしまい、農地も壊れた方ですが、後継者もなく、そのままにしておくようです。ほ場整備が入っているような大きな田んぼならまだしも、小さな農地では借り手もいませんから。こうした農地は、いつ

か自然に山へと戻つていくのでしようね。



# 兵庫県

兵庫県は、昨年の農地・農業用施設の被害額約459億円であり、新潟県に次いで全国2番目の被害額となった。これは、10月18~21日に通過した台風23号をはじめ、豪雨による被害である。とくに瀬戸内海に浮かぶ淡路島でのため池の被害は大きく、約1300カ所のため池が被災し、約200ものため池が決壊するなど、大きな傷跡を残した。

こうした淡路島の災害状況レポートを兵庫県農村環境課課長補佐、大上博一さんに寄せていただいた。

食卓を支えていた。現在では、農業粗生産額で兵庫県の26%を占め、京阪神の食糧基地として名をはせている。島南部は温暖な気候を生かしたタマネギ・レタスなどの花き栽培やトマト・いちごなどの野菜栽培、神戸ビーフ・松阪肉など高級牛の優秀な仔牛の育成が盛んに行われている。

## 台風23号

昨年の10月20日の朝から降り続いた雨

は24時間で300mmを越え、最も激しい時には1時間あたり70mmに達する豪雨となつた。崩れやすい北部の山は軒並み崩壊し、農地、ため池そして家屋を押し流

すだけではなく、島中の道路、河川をズタズタにし、島のすべての機能が破壊され、洪水、土砂崩れにより死者10名、家屋の全・半壊は約2100棟を数え、人々の記憶にないほどの大災害となつた。農作物の被害も甚大であり、野菜・花・水稻など耕作面積で約1000ha、約21億円の被害となつた。農地やため池、水路、農道などの被害は約1万5000カ所に及び被害額は約240億円に達した。農地農業用施設災害としては記録のある昭和25年以降で最大の被害となり、平成7年1月の阪神・淡路大震災を大きく上回る災害となつた。台風23号災害の特徴は、ため池の被災が1299カ所と多く、決壊した池が181カ所に上つたことである。このため、平成17年度の水稻の植付けが心配されたが、早急な復旧事業と仮

水源の確保など農家の営農努力によりおむね耕作が可能となつた。

## 棚田の復活

淡路市（旧北淡町）の五斗長地区は瀬戸内海にしづむ夕日が映える、美しい棚田地域である。ここは水源である大規模

ため池が決壊し、農地の被災も甚大であったために今年の田植えはあきらめざるを得なくなつた。逆にこのことが、懸案であった「ほ場整備」事業を進めるきっかけとなり、併せて「まちづくり協議会」を立ち上げて地域づくりにも力を入れるなど、新たな棚田づくりに向け集落一丸となって、災害からの復興を目指してい

る。

棚田は郷愁をさそう美しい農村景観ではあるが、維持して行くためには大変な労力を伴う。五斗長地区の農家は農業の継続を考え、「ほ場整備」の道を選択したのである。田の形は変わつても播磨灘の夕日を背景にした棚田の美しさは変わらない。整備された棚田は五斗長の新しい棚田風景として次代に引き継がれて行くであろう。

この度の災害では被災直後に、ごく一部であるが離農したいという農家の声も聞こえた。しかし、大半の農家は度重なる災害にも負けずに農業を続けていく。今後も災害は起きるであろうが、淡路島の農家は「御食国」の島として誇りをもち、農作業を通じていつまでも美しい農村風景である棚田を守つて行くことであらう。（兵庫県農林水産部農林水産局農村環境課 課長補佐兼防災係長 大上博一）

# 三重県

(宮川村)

三重県内は、昨年台風6号を皮切りに5個の台風被害がもたらされ、農地・農業施設の災害件数は40市町村582件に及んだ。なかでも、昨年9月29日、台風21号の豪雨により中山間地域である宮川村での災害件数は約60件であり、土砂災害は大きく、村の景観そのものを変えてしまったという。そんな宮川村の災害について、村建設課、耕田満さんにお話を伺った。

## 山からの土石流が川を襲い、農地が流失、埋塞。川底も

2~3m高くなつたまま

「昨年の9月29日でした。台風21号が近づいてきたことで前線が刺激され、集中豪雨となり、被害を受けました。28日の20時から29日の21時のあいだ、豪雨が続いたのです。それは、役場の雨量データ1で700mmを超えるました。

宮川村は東西に長く、役場がある位置

宮川村南地区。宮川と山林のあいだに農地が広がり、宮川が氾濫したことで農地や川沿いの緑地帯が流失した

## 淡路島の農業

淡路島は大和朝廷のころから皇室に食料を供給する「御食国」として、朝廷の

地形的には、島の南部は比較的平坦であるが、北部は島の背骨にあたるところに津名丘陵が走り、その東西はいずれも傾斜地で海岸線にかけて棚田が発達しており、その中に小規模なため池が点在する。島の南北は島の背骨にあたるところに津名丘陵が走り、その東西はいずれも傾斜地で海岸線にかけて棚田が発達しており、その中に小規模なため池が点在する。

000カ所）を保有し、そのうち淡路島には約2万3000カ所がある。

地形的には、島の南部は比較的平坦であるが、北部は島の背骨にあたるところに津名丘陵が走り、その東西はいずれも傾斜地で海岸線にかけて棚田が発達しており、その中に小規模なため池が点在する。



# 福井県

2004年7月に起きた福井豪雨災害。活発な梅雨前線が、7月18日未明から昼頃まで福井県嶺北地方に停滞したこと、大災害となった。福井県が発表した福井豪雨による農業被害(農作物被害・農地被害・農業施設費が、生活関連施設被害)と林業被害(山地被害・林道被害・林産施設被害)だけで、その被害額185億円。河川被害や人的被害、住居被害を加えると600億円となっている。

福井豪雨災害の状況と、営農に向けた積極的な復旧の事例について、福井県農村振興課水利防災グループ主任、中川俊幸さんからお話を伺いました。

は村の東の方で、役場付近は大きな被害がなかったのですが、それでも29日の午前9時までの時間雨量は90mm。その後も時間雨量50mm以上の雨が4時間続きました。被害が大きかった村の西の方では、時間雨量113mmを記録したと聞っています。総雨量は800~900mmくらい降ったのではないでしょうか。この豪雨により、いたるところで山が崩壊し、土石流が河川へと流れ込みました。

あつという間に、山が蓄えられる飽和量を超えてしまったのです。宮川村は年間降水量が平均2875mmと、もともと雨の多い地域で、尾鷲(三重県尾鷲市)と匹敵するほどです。ですから、2日間で300~400mmの雨も珍しくはないのですが、1日で700mmもの雨がまとめて降ったのははじめてでした。お年寄りの方も『長いこと村におるけど、こんな雨ははじめてや!』と言っていました。また、『10年に1回のことや!』という災害でした。村は95%~8%が森林ですが、昔から山

に保水力があつたからでしょうね。いままで雨が多くても、水路や田畠への被害はほとんどなかったのです。農地は決して広くはありません。一筆が5畝ぐらいいの農地が多く、1反(10a)もあれば非常に大きく見えますね。

誰もが、水路・田畠への被害を知らなかつたなか、今回、国の災害復旧事業で採択されたのが村内で62件ですが、数ヵ所をまとめて1件としている所もありますし、国の採択基準に載らなかつたものもあり、実質は約110ヵ所の農地・農業施設被害が出ています。

施設関係では、用水路に水を取るために頭首工が、各集落ごとにあります。これら計8ヵ所が土石流に襲われ、土砂で埋塞しました。そのなかの1ヵ所は、護岸とともに取水部の水路が約160m流されたほどです。村の水路は山裾に沿って通つていていますが、豪雨によって山の斜面を流れた雨水により、水路の管理道が崩れ、水路も土砂で埋まりました。

## 福井県池田町では 災害を機に農地の整備、農業公社へ耕作委託が進む

「昨年7月の福井豪雨災害は、戦後最大でした。7月18日の半日足らずの時間でもたらされた被害です。ちょうど、日本海から北陸地方にかけて停滞していた梅雨前線に、非常に湿った空気が流れ込んで豪雨となつたのです。しかもそこは福井県嶺北地方の、足羽(あすわ)川沿いを中心とした幅30~50km、長さ1

川沿いの田畠が被災しました。山裾の田畠が3~4段あるような田畠は、畦法面の崩壊のほか、山からの土砂が流入し堆積しました。農地の形がなくなつたのは、河川沿いです。写真(P6)は南地区のものが、田んぼ1枚の大きさは1反2畝程度で、畦の高さは2~3mぐらいです。石を積んだ上に土を盛つて畦をつくっていますが、こうした畦法面が河川氾濫によつてなくなつてしまつています。

災害前は、川から田んぼへ上がるところの斜面に、ちょっとした山といいますか、木々が生えている緑地帯が広がっていました。この木々も河川の氾濫で流されてしまつて、河川周辺の景観はまたたく間で変化しました。河川沿いの緑(山)がなくなつて、村の景観そのものが損なわれたのです。

しかも、宮川本流も支流もすべて河川の底が、土砂で2~3m上がつてしまつました。その土砂の量は、何万立米では

0~120kmという限られた範囲つまり、足羽川に沿つて雨雲が発達し、そこに豪雨が降つたために大災害となつたわけです。

降水量のデータを見ると、例えば、美山町では1時間に96mmという猛烈な雨でて雨が降つた結果、川が氾濫し、土石流や流木が河川に入り込んで、河川周辺の農地を襲いました。そんな被災地のなかでも、池田町の事例をご紹介します。

池田町は、岐阜県との県境にある山間部の町です。なかでも今回お話ししたいのは、千代谷地区と小畠地区の2地区に入れた関連事業のことです。

足羽川の支流である金見谷川流域の千代谷地区と、同じく支流の部子川流域である小畠地区に、「農地災害関連区画整備事業」を入れることができました。これ

きかないですね。取り除ける量ではないんです。途方もない量です。以前は、石がごろごろしていたのですが、いまは砂地です。川の姿が変わつてしまつて、鮎釣りのシーズンですが、鮎釣り客も減っています。もとの川の姿に戻つて欲しいという願いをみんな持つていますが、何年と待たないと……。

ほかに、「広葉樹が残つておれば……」という声があります。やはり、植林したスギやヒノキなどの針葉樹はことごとく、根っこごと流されているのです。同じ川沿いでも、ケヤキやドングリの木などの広葉樹は、水にあたつても抜けずに残っています。根の張りが深く、強いんですね。災害後、流されずに立つていた広葉樹の姿を見るといふと、広葉樹の大切さがわかりますね。

今年もまた豪雨が来てしまふと、河床が上がりつていますから、どれだけの被害が出てしまうのか、わからないですね。みんな『これで水がまた来たら、怖いなあ』と話しています。

は、災害復旧に併せ区画整備を行える国

の補助事業です。

この事業では再度災害防止の視点に立ち、被災した農地と未被災農地を併せて一體的に整備することができます。しかし、採択条件が厳しく、事業効果等が大きくなればなりません。そのため、全国的にもあまり実施事例の少ない事業なのです。

千代谷地区は、何よりも再び災害が起きないよう、川の流れをまっすぐに直す必要性があり、河川災害においても改良を加える関連事業が入りました。それに伴い、河川流域に開かれていた農地を整

える必然性が生じ、この事業が導入できともいえます。

千代谷地区では、金見谷川本流や流れ入る何本もの狭い渓流から土石や流木が流れ込み、農地が崩壊しました。小畑地区では、堤防が決壊し、洪水によって農地が流失し、原形に復旧することが不可能な状況でした。

それぞれ農家戸数19戸、7戸と小さく、高齢化が進んだ地域です。こうした状況下ですから、災害後、復旧したあとの営農の問題もありました。

そんななか、これらの地区は災害を機に、整備後の農地約5haの耕作を町の農林公

社に委託する方針でいます。農林公社と一緒に手農家から委託を受けた農地を、町内の手農家へ流動化する役割を担っています。農林公社が間に入ることにより流動化がスムーズに進むとともに、どうしても担い手が見つからない場合は、農林公社自らが耕作しています。

池田町は人口約3700人の山間部の町ですが、合併問題でもいち早く合併しない宣言をしています。また、食の安全性に對しても意識が高く、古くから町独自で有機農業認定基準を設け、環境保全型農業を行っている町です。

ある。

こうした中山間の地域は雪も深く、豪雪の今年は5月中旬によく雪どけを迎え、あらためて調査に入ったところだ。積雪後、何回も続いた余震や豪雪が地震の被害をさらに拡大したり、新たな崩落などの被害を引き起こしている。被災した方々も住む家をどうするのかというところから手がける必要があり、どのように復興していくか時間をかけて話し合つていくことも大切と感じている。

県ではこうした原形をとどめないよう被災を受けた地区で、農地災害関連区画整備事業等と宅地や道路その他の非農用地を含めた一体的な整備の手法について、地域の方々の意向を聴きながら検討を進めている。

こうした背景もあり、池田町は高齢化が進み、耕作できなくなつた農地を担い手へ流動化するシステムを以前からつくられていたのです。ですから今回、確かに被害は甚大でしたが、農地を整備し、農地を広げることで新たな営農体制への青写真が描けたのです。ほかにこうした事例はなく、県内でもここだけです。

しかし、復旧には時間がかかり、3年程度農業を離れることになりますが、新たな農地に寄せる期待も大きく、関係者が連携し、意欲的に災害復旧に取り組んでいます。

落の声も聞いているが、農業を続けたいという意向もまた多く聞く。県農林水産業経営再建プロジェクトチームでは、「個人・個別農業から互いに助け合う共同・地域ぐるみ型農業へ」そして「自然・地域食材・伝統文化等の地域の持ち味を活かした新たな産業興し」により、みんなで創る新しい豊かさと活気に満ちた山里をめざして新たな中山間地型営農モデルの構築を進めている。

## 新潟県中越大地震 災害の記録&復興の記憶

平成16年、"大災害に何度も襲われた年"と記録に残るだろう。7月の水害、10月の大地震、そして19年ぶりの豪雪。いずれの天災も新潟県中越地域の中山間地に

# 新潟県

2004年10月23日、震度7を記録した新潟県中越大地震。震災による農地・農業用施設の被害が甚大であったことは言うまでもない。国が査定した新潟県の農地・農業用施設の被害額、約834億円のうち、約688億円が新潟県中越大地震による。しかし、新潟県の被害は、地震だけでなく、他県と同様に7月には集中豪雨に見舞われるなど、災害に次ぐ災害という1年であった。震災後、19年ぶりの豪雪がとけ、復旧作業に取り組んでいる新潟県のようすを、新潟県農地建設課参事、宮里圭一さんにお寄せいただいた。

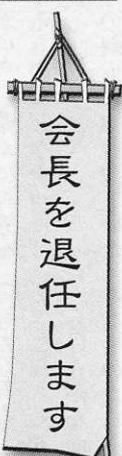
大きな傷跡を残した。特に地震は、中山間地に静かにたたずむ棚田の姿を大きく変え、そこに暮らし耕す者の生活を一変させた。そして心に大きな穴を開けた。

10月23日夕方、震度7を記録した本震を含め12月まで、震度5弱以上の余震に19回も大地が揺り動かされた。農林水産関係の被害区域は、58市町村（地震発生時点の旧市町村数）の広範囲に渡り、被害額は1300億円余りに登った。被害は、農地、農業用施設に留まらず、牛や豚、さらにこの地域の特産である鯉などの生物にも及んだ。

平地での被害が、農地の地割れや液状化による砂の噴き出し、用水路等の破損といった現位置での被害が多いに対し、中山間地ではこうした被害に加え、沢を縫う国県道や市町村道とともに耕地や水路が崩れ落ち、もとの形がわからない状況となつている棚田も多いという特徴が

震災地域の8市町では、989haの農地で本年度の作付けができないことが明らかになつた。平場への移転を決めた集

# 全国棚田(千枚田)連絡協議会会長が替わります



可知 義明



岐阜県恵那市長

## 会長に就任します

佐賀県唐津市長

坂井 俊之



今年度、会長を務めさせていただきます唐津市長の坂井でございます。

昨年相知町で開催いたしました第10回全国棚田(千枚田)サミットでは、全国各地から多くの方々のご参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。改めて、心から厚くお礼を申し上げます。

サミット開催10年という記念すべき年にサミットを開催させていただき、いろいろな視点から活発な議論を行つていただきました。このような皆さまの棚田保全に対する熱い思いが、中山間地域等直接支払制度の継続に繋がつてしましました。また、文化財保護法の改正、環境省、農水省、国土交通省による景観法の制定など国の動きも、棚田保全活動の追い風となっています。

このよう中、本年度の全国棚田(千枚田)連絡協議会の役割は、非常に重要なものとなりました。今後も、棚田保全の必要性をもつと全国にアピールし、国民の財産である棚田地域、中山間地域を支援し、さらに発展させ棚田を中心とするまちづくりに取り組む所存でございます。会員の皆さまのより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げ、会長就任の挨拶といたします。

昨年佐賀県相知町にて開催されました第10回全国棚田(千枚田)サミットは日本の「食」と「農」を見直すをテーマに900人以上の方が参加し、盛会で意義深いサミットとなりました。これもひとえに坂井俊之唐津市長様はじめ、実行委員会関係者の皆様のご努力の賜物と感謝いたします。

さて、当協議会において継続の要望を行つて参りました中山間地域等直接支払制度の今後5年間の継続が決定しました。本制度を活用し、今後も継続して棚田地域の保全、活性化のために日々邁進していく所存であります。

最後になりますが、全国の会員各位、棚田保全にご理解ご協力いただきました皆様、国、県をはじめとする各種団体の皆様にこころより感謝申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。

事務局  
ニュース

事務局、佐賀県唐津市からのお知らせのコーナーです

今年度、全国棚田(千枚田)連絡協議会の事務局を務めさせていただきます「佐賀県唐津市(相知支所産業課)」です。会員の皆さま、関係者の皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、唐津市と相知町を含む東松浦地区6町1村は、本年1月1日に合併をいたしまして、面積424平方キロメートル、人口13万2千人の新唐津市として発足しました。市内には、サミットを開催しました相知町蕨野地区や肥前町大浦地区があり、棚田を守り後世に伝えようと、農業に観光にと、地元が一丸となってさまざまな取り組みがなされているところです。

市としましても、日本の農業の歴史的文化遺産、資源として、国民の財産である棚田地域、中山間地域を支援し、さらに発展させて、棚田を中心とするまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

今年度は、中山間地域等直接支払制度が継続という形で新たに制定されました。また、文化財保護法が改正され、棚田が人との自然の関わりの中で作り出されてきた文化的景観として保護の対象となりました。10年前であれば、とても考えられなかつたことが、次々と実現しています。これも、連絡協議会の発足前から地道な棚田保全活動を続けてこられた方々、深厚な議論の場を地域をあげて作つていただきサミット開催地の方々、そしてなにより、連絡協議会会員の皆さまのご支援、ご協力の賜物であると思います。

連絡協議会の今後の課題として、会員減少の件、第13回以降のサミット開催地未定の件があります。会員の減少については、市町村合併による自治体会員の減少や個人会員の脱退等がありますが、新規加入者の発掘はもとより、一度脱退された方(自治体)にも、もう一度振り向いてもらえるように、勧誘活動を続けていきます。

また、高度情報通信ネットワーク社会の構築が猛烈なスピードで進んでいますが、やはり、顔を合わせて、直接言葉を交わし情報を交換し合うサミットの場には及びません。事務局としても、サミット開催のあり方を見直し、会員の皆さんに提案していきたいと思っておりますので、よいアイデアがございましたら、事務局へご一報ください。また、サミットの継続のため、各地域でのご検討をぜひよろしくお願いいたします。

(一)

ほうらいちょう

## 愛知県鳳来町

取材・文：石井里津子

## 地域のつながりが保全の道をつくる

杉の木は、保存会と、地元の若手で結成した「連谷サミットお助け隊」のみんなで切りました。さらに、ここに向かう県道沿線の障害木も彼らの手によって伐採されたというから恐れ入った。

この田んぼにもこうした場所があるのだそうだ。つまり、この道はただの農道ではなかった。

小山さんに教えてもらった。

信州古道の一部で、武田軍が「長篠の戦い」に破れて引き返した歴史的道なのである。

「ここはどこでも道すがらに五輪様があるよ。お盆やお正月、お彼岸に花を供えるね」

鞍掛山麓千枚田保存会会長の

高橋庄一さんもいう。ぜんぶで何体くらいあるのか。

「数でいえば、100や200

はあるんじゃないかな。別にだれ

も数えたりせん」

ものすごく珍しがる私は裏

腹に、地元のメンバーたちは、

五輪様に興味を示す訪問者をい

ぶかしがっていた。どうも地元

にとっては当たり前で、取るに

足らないものようであった。

だが、明らかに「長篠の戦い」

という歴史を刻んだ地域ならで

はの棚田の姿だった。「長篠の

戦い」は1575年、鳳来町に

あつた長篠城を武田勢が襲撃し、

それを織田・徳川の援軍が30

00挺の鉄砲で制した歴史的合

戦である。

風雨にさらされ、朽ちた五輪

石垣のくぼみに2~3体集まつ

てているものもあれば、石垣の下、

水口のところに数体集められた

ものもある。「一体、何なのかな?

これ? 五輪塔様。五輪様と

もいうかなあ。野仏。無縁仏的

なものだらあの。長篠の合戦で

いという。ただ、長篠の戦い以

後440年、無数の無縁仏を弔

いながら、世代を替え、田を守

つてきた地域のこころに触れた

気がした。

**山津波を乗り越えて**

事を人々は忘れない。明治37(1

904)年7月、ここを山崩れ

が襲つたのだ。それをこの地で

呼ぶ。棚田のなかに点在してい

た家が10軒押し流され、11人が

亡くなつた。

保存会の会長、高橋さんの家

も流された1軒。家族5人の命

が奪われた。その後、再びこの

地で復興してきただけに田んぼ

を守つていく思いは強いと話す。

「山津波のあと、出て行つた者

もおるが、帰つてきた者もおる。

うちには、おじいさんの代で流さ

れて、おじいさんただ一人だけ

が生き残つた。おじいさんのお

ふくろさん、妻、子ども2人、

甥っ子の5人が亡くなつたね。

その後、私の親父がもらいつ子

が死んでしまつたんだよ」

当時、この復旧に雇われたブ

ロの石屋の集団があるという。

それが「九六鍬さん」だ。石積

み職人というわけではなく、田

んぼを直すプロである。そこで

は「大てこ」「木ん馬」「九六鍬

(縦9寸横6寸の鍬)などの道具

が用いられたとのことだつた。

さて、四谷千枚田を耕作する

学校が基点になつたるだらね。

「県道下の斜面に植わつていた

杉の木も、電線もない。

杉の木も、電線もない。

案内をしてくださつた「鞍掛

山麓千枚田保存会」理事の小山

舜二さんがいう。確かに視界を

じやまするものなどなかつた。

「どうですか? ここは、真正

面の県道から棚田すべてが一望

できるんです」

案内をしてくださつた「鞍掛

山麓千枚田保存会」理事の小山

舜二さんがいう。確かに視界を

じやまするものなどなかつた。

「これ? 五輪塔様。五輪様と

もいうかなあ。野仏。無縁仏的

なものだらあの。長篠の合戦で

いという。ただ、長篠の戦い以

来の木は、保存会と、地元の若

手で結成した「連谷サミットお

助け隊」のみんなで切りました

さらに、ここに向かう県道沿

線の障害木も彼らの手によつて

伐採されたといつから恐れ入つた。

線の障害木も彼ら

地域のためなら、みんな一丸となるのがこの地区なのよ」

地区的基点という連合小学校は、現在全校児童数14人。総合学習で千枚田を勉強し、すべての農作業を全校児童で行う。学校から徒歩で5分もかかるない場所に千枚田があるため、活動は日常的だ。低、中、高学年それぞれで1枚ずつ田んぼを持ち、米づくりに励む。田んぼ1枚といつても、低学年の田んぼは3m<sup>2</sup>にも満たず、かわいらしい。

そして、千枚田の上に住む上級生が通学がてら、毎日自分の田んぼの水管理もする。上級生が下級生に農作業の指導も行う。また、1家族で1つ、案山子もつくって飾りはじめた。千枚田での活動は、総合学習がはじまってからではなく、歴史は長い。学校の先生は話す。

「子どもたちは、愛着を持っており、千枚田をなんとか守っていかなければ、という気持ちになっています。千枚田を通して、地域のことをわかつてくれればいいと思っています」

四谷千枚田を歩き終えると、集会所でお助け隊のメンバーや保存会の女性陣が集まってくれ、うれしいもてなしを受けた。地区的そば、たけのこ飯、蜂の子、バーベキュー…。やさしい味で美味だった。

みんなの温かな気持ちが、この場の雰囲気と食事に込められていた。お助け隊のメンバーが口々にいった。

「ここが好きだ。ここは、自慢できるふるさとなんだ」

「ここはね。どこかに行つておかしくなつて帰つてきて、『人間』になれるところよ。おかしくなつたとき、ちょっとここに来つてよ。『人間』になれるから」

鳳来町連谷地区育ちの誇りがあつた。彼らが、世代を超えて、地域でつながりあえるのは、ふるさとの美しさと素晴らしい景色をそれぞれが自覚し、それを自らの「原点」としているからなのだと思えた。そして、それが棚田保全への道をつくっていた。

今年9月2～3日、第11回全国棚田サミットがこの地で開催をしたいという。ぜひ、この機会に鳳来町の人々の心意気に触れてほしい。



保存会とお助け隊の方々。四谷千枚田をバックにして。写真、前列左が小山さん。前列右が高橋さん

## 第11回全国棚田(千枚田)サミットへ行こう!!

2005年 9月2日(金)～9月3日(土) 愛知県鳳来町開催

みんなを語って出かけませんか?

テーマ

「緑と水と心のオアシス」

【開催日程】

第1日目

9月2日(金)

9:00～9:50	全国棚田(千枚田)連絡協議会理事会	町役場合同委員会室
10:00～11:50	全国棚田(千枚田)連絡協議会総会・首長会議	開発センター大会議室
11:50～12:30	昼 食	開発センター大会議室
13:00～13:30	開会式	鳳来中学校体育館
13:30～15:00	基調講演 演題:「棚田は宝、棚田はいのち 一愛・地球博に寄せてー」棚田学会会長 木村尚三郎	//
15:00～18:30	千枚田見学	
18:30～20:30	全体交流会	やまびこの丘 屋内軽スポーツコート

第2日目

9月3日(土)

分科会	9:00～11:30	①『中山間地域のための制度』(東京大学大学院助教授 小田切徳美) 制度見直し後の地域活性化のために	開発センター大会議室
	12:30～14:00	②『緑』(愛知大学文学部教授 藤田佳久) 棚田と森を考える	県民の森第一会議室
	14:00～15:30	③『水』(東京農工大学教授 千賀裕太郎) 棚田と水の関係	県民の森森林学習館
	15:30～17:00	④『百姓の集い』(早稲田大学名誉教授 中島峰広) 先祖代々から受け継いだ文化遺産としての棚田を何としても守りたい	鳳来中学校体育館
11:30～12:30		昼 食	分科会各会場
13:00～13:30		事例発表 連谷小学校『私たちの千枚田』	鳳来中学校体育館
13:30～13:50		「東海美の里百選・四谷千枚田」絵画コンクール表彰式	//
13:50～15:00		分科会発表	//
15:00～15:30		共同宣言採択／閉会式	//

3日目

4日目

8:30～ 愛・地球博会場へ (申込者はバスにて会場へ移動)

2005第11回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会事務局(愛知県鳳来町役場 産業観光課内)

〒441-1692 愛知県南設楽郡鳳来町長篠字下り篠1-2

TEL:0536-32-1984(直) FAX: 0536-32-2111(直)



## 宮崎県日南市で棚田まつり開催

宮崎県日南市の最高峰、小松山の麓に広がる「坂元棚田」は、整然とした長方形であり、近代的なイメージがありますが、荒削りの素朴で温かみある石積みで馬耕を前提とした棚田で、「ひと」と「自然」が共存した昔ながらの美しい里山を残しています。

この美しい風景を後世に残していくとともに、棚田保全活動やグリーンツーリズムを通して多くの人々に「農業と自然の大切さ」を伝えることを目的に、酒谷グリーンツーリズム協議会が発足し、棚田オーナー制度を中心に活動を開いているところです。

石垣清掃や石垣積み教室、稲刈り

りボランティア、収穫祭の活動により変化していく棚田の表情を体験しています。そんな活動の中で棚田の表情が一番きれいで生命の息吹を感じるのは、春に開催される「せせらぎの里 棚田まつり」です。このまつりは、棚田に咲きほこるレンゲを見てもらおうと始まったもので、今年も4月10日に「菜種梅雨」の心配の中、開催されました。小休止した田圃にレンゲの紫色のじゅうたんと菜の花の黄色のアクセントが広がり、まさに春の息吹がそ

そがれた風景がそこにはあります。この最高の場所で、棚田を舞台にして和太鼓の演奏、子どもたち

による胡弓演奏、腹話術等と様々なイベントが次から次に披露され、地元の手作り郷土料理の提供も加わり、観客は1500人以上の大盛況となりました。

この「坂元棚田」で来年（2006年）の第12回全国棚田（千枚田）サミットは開催されます。これまでの開催地と比べると、棚田耕作数70枚、面積3.5haと小さいですが、南国気分を味わえる最南端での開催とサミット開催を中心に行なっています。そして今年、鳳来町サミットで全国のみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

（日南市農政課農政企画係  
安部裕二）

## Topics

### 若者パワー⑤

このコーナーでは、棚田保全活動をしている若者たちを紹介します。

## 鳥取県 学生人材バンク

鳥取県農山村ボランティアの事務局を引き受け、県内の棚田をはじめ里山を守る「学生人材バンク」を紹介します。



学生人材バンクは2002年4月に、鳥取大学学生により発足した任意団体です。アルバイトやボランティアの情報を、メーリングリストやHPを通じて学生登録者に情報発信しています。現在は社会人スタッフ2名、学生スタッフ5名で運営しています。

ボランティアやアルバイトを通じて社会との接点をつくり、学生の地域貢献という二次的効果にも期待しつつ、その経験や人脈が社会に出るときの学生の財産となることを目的として活動しています。

発足当時から農作業ボランティアを紹介していましたが、昨年度鳥取県の事業「農山村ボランティア事務局」の業務を受託してから、より多くの集落と関わり、ボランティアを紹介することも多くなりました。棚田ボランティアもその一つです。

今年度はすでに、昨年に引き続いて岩美町横尾棚田での水路清掃・田植えイベント、新たに国府町上地棚田での水路清掃を紹介しています。

水路清掃はなかなか体力の必要な作業です。水路の周りの草刈り、水路の土砂さらいが主な仕事ですが、今年は昨年の台風や大雨の被害が大きく、崩れた土砂をはねたり、大きな岩を崖に落とさなければなりません。それを4kmほどある水路すべて行うには、今や村の人だけでは大変になってしまいます。今回の水路清掃では、学生は20名程が参加しましたが、地元の人にとってこの20人は貴重な労働力となっています。

ここ2年間ボランティア活動に関わってきて思うのは、「ボランティア」というのは扱いが難しいということです。実際本当にボランティアが欲しい作業はきつくて危険が伴うような仕事であるため、集落側は比較的簡単な仕事にボランティアを募集しがちです。逆に学生は、農作業経験をしたくてているため、多少きつてもやりがいのある作業を求める傾向があるので、簡単で安全な作業には物足りないというシレンマがあります。こういった傾向は一概には言えませんが、集落側、学生側からよく出る意見です。

しかし、学生が地域の農作業に関わる意義というのは、単に労働力の提供だけでなく、「交流」が大きな部分を占めているように思います。「おじいさんの話がおもしろかった」「おばあちゃんの作った漬物がおいしかった」「去年行ったところに今年も行ったら名前を覚えてくれていてうれしかった」など、参加する学生の感想を聞くとそれがよく分かります。逆に集落の方と話すと、「ボランティアの時だけじゃなく、普段のいつでもただ来るだけでよいから来てくれると嬉しいなあ」とよく言われます。

今後の課題は、集落側と学生側のそれぞれのニーズをどうマッチさせていくか、学生を含む人をいかに自然に交流する機会を増やしていくかだと思います。とにかく現場に出て、聞いた意見を今後の活動に生かしていくたいです。

（学生人材バンクスタッフ：吉田圭吾）

## 新しく会員になったみなさま

自治体正会員 鹿児島県鹿児島市（市長 森 博幸）



### 棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 全国棚田（千枚田）連絡協議会 お申し込み・お問い合わせは協議会事務局 佐賀県唐津市相知支所産業課

〒849-3201 佐賀県唐津市相知町相知2055-1  
TEL:0955-62-2368 FAX:0955-62-2573  
協議会HP:<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 編集後記

特集記事にご協力いただきました各県、市町村の担当者のみなさま、そして農林水産省整備部防災課災害対策室永瀬健次さま、本当にありがとうございました。今年も早くも日本各地で豪雨の危険が迫っていますが、災害の多い日本のなかで、より何ができるか考えていきたいものです。

さて、今年もサミット開催に大きな期待が寄せられています。私事で恐縮ですが、7月中旬に出産予定のため、わたくしは今回行けそうにないのですが、みなさまからの熱いレポートをお待ちしています。 石井里津子